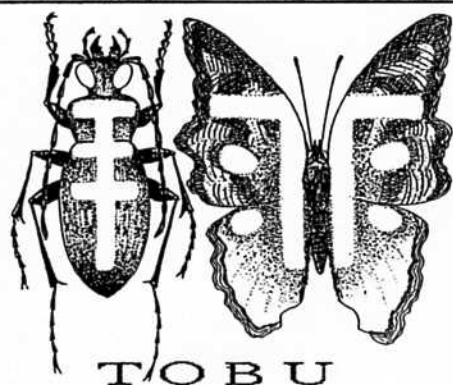




NO. 61

1987年 2月

百万石蝶談会

目 次

: 短 報	7		1
松井正人: 1986年アサギマダラの発生地調査			2
吉村久貴: 唐松岳から爺ヶ岳へ (後立山縦走記)			3
井村正行: マヤサンコブヤハズを宝達山で記録			5
松井正人: 金沢から最も近いゼフィルス24			6
井村正行: 石川県のカミキリムシ科 (その6)			7
編 集 部: 1986年石川県昆虫界10大ニュース			10
: 1986年収支報告			12
編 集 部: 会員の動き・しゃぼの動き			13
編 集 部: 例 会 の 記 録			14

短 報 7			
コムラサキ			
1987年1月18日	輪島市市坂	24幼	田中秀夫・松井正人
1987年1月18日	輪島市小伊勢	14幼	田中秀夫・松井正人
1987年1月18日	門前町正仏	5幼	田中秀夫・松井正人
1987年1月18日	門前町定広	5幼	田中秀夫・松井正人
1987年1月18日	中島町横田	4幼	田中秀夫・松井正人
ミドリシジミ			
1987年1月18日	富来町東小室	16卵	田中秀夫

1986年アサギマダラの発生地調査

松 井 正 人

石川県でアサギマダラは春期から秋期にかけて見ることができるところが県内に土着しているのか、それとも春期から秋期にかけて南方より飛来しつづけるのか、はたまた南方より飛来した子孫が一時的に発生を繰り返すのか、今のところわかっていない。しかしながら諸文献から判断すると、「石川県のアサギマダラは春期に南方より飛来したものが、秋期にかけて何回か発生を繰り返す」と思われる。そこで1986年は手始めとして、まず県内での発生を確認することにした。

県内でアサギマダラが比較的良く見られる所は白山周辺、金沢市医王山、押水町宝達山といったところだが、最も多く見られる所はなんといっても白山釈迦岳であろう。ここでは8月上旬におびたしい数の、しかも新鮮な個体を確認されている。(*1) このことからこの地でアサギマダラが発生しているのはほぼ間違い無く、ここで調査すれば簡単に発生が確認できると思われた。ところが1986年は釈迦岳方面の道路開通が大幅に遅れ、6月末までは全く近づくこともできず、開通後も白山市の瀬以奥は車両進入禁止のままで、調査地の釈迦岳へ行くには片道2時間半程度の徒歩が必要となった。こうなると車社会に慣れた人間はもろいもので、釈迦岳への調査行は3回だけとなってしまった。しかし釈迦岳だけでの調査では心許なく、白山周辺の蛇谷、中の川、丸石谷、目附谷といった所で更に6回の調査を行った。結果は釈迦岳(イケマ1カ所)、蛇谷(イケマ1カ所)、中の川(イケマ1カ所)、丸石谷(イケマ5カ所、カモメズルsp1カ所)で食草に値するものを発見したのみで、幼虫等の発見には及ばず、発生の確認はできなかった。これらのものは、中の川の1カ所を除くと、いずれも日当りの良い林道脇で発見したものである。

このように1986年は食草(?)しか発見できず、その食草もわずか9カ所であるため、この中から幼虫等が発見されなかったとしても、しかたないことだと思われる。それにしても1986年の白山は異常にアサギマダラが少なく、調査していても日に2桁の成虫を見ることは無かった。1980年に吉村氏が釈迦岳で出合った光景を普通と見るならば、1986年はアサギマダラの不作年だったのかも知れない。

1986年は調査の回数も少なく、あわせてアサギマダラの不作年に当たってしまった(?)ことから、発生地を確認できなかったが、県内で確実に発生していると思われるので、これからも調査を続行するつもりである。何としても1987年には発生地を見つけないので、皆様方の中に県内のアサギマダラに関する知見、および本稿に対する御意見等がありましたら、ぜひとも筆者までお知らせ願いたい。

*1) 吉村久貴(1981)白山に於けるアサギマダラの最盛期について、翔 NO.21

唐松岳から爺ヶ岳へ（後立山縦走記）

吉村久貴

本夏(1986年)、盆休みに同僚と後立山連峰を縦走し、鹿島鑓ヶ岳に登山した際に、高山蝶(ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、タカネヒカゲ)を多数目撃した。唐松岳から爺ヶ岳は、登山者も少なく、高山蝶もたくさん生息している。今回はこのコースを紹介したい。

8月12日、金沢を5:00に出発。8:00に白馬に到着。駅前でソバを食べた後、タクシーでAdam(旧白馬ケーブル)の下へ。荷物代を含めて兎平まで660円かかるが、15分で標高1600mへ。リフトに乗り換えるが、荷物代として、一人分の運賃をとられた。リフトを2本乗り継ぐと一気に標高1850mの八方池山荘まで上がることができる。リフト沿いはシモツケソウ、アザミ、トリカブトなどの花が咲き乱れ、ちらほらベニヒカゲが飛んでいるのが見られた。

八方池山荘で水を補給したあと、10:30に登り始めた。観光客の多い登り道をひたすら登る。第2ケルン、八方ケルン、第3ケルンを通り、約40分で八方池に到着した。ここまでの道沿いにも、いくつかベニヒカゲを見かけたが、一頭だけ見慣れぬ黒っぽい小さな蝶を見つけた。よく見ると、それはゴマシジミであった。

八方池から上部は、本格的な登山道で、観光客は八方池で引き返すため、登山者はぐっと減る。Erebiaの飛び回るお花畑を10分位で、ダケカンバ帯(下の樺)に入る。ダケカンバの林の中にも点々とお花畑があり、やたらErebiaが多い。少し大きめで、白帯の見える個体は、クモマベニヒカゲであった。個体数はかなり多いが、ガスがかかるとほとんど飛ばない。

上の樺を過ぎたところで昼食。12:30。ここから30分位で唐松山荘に到着する。唐松山荘直前に少し危ないガレ場があるが、それ以外に危険箇所は無い。稜線に出たがガスがかかって剣岳の勇姿は見えなかった。不帰のキレットは、かすかにかすんで見えた。

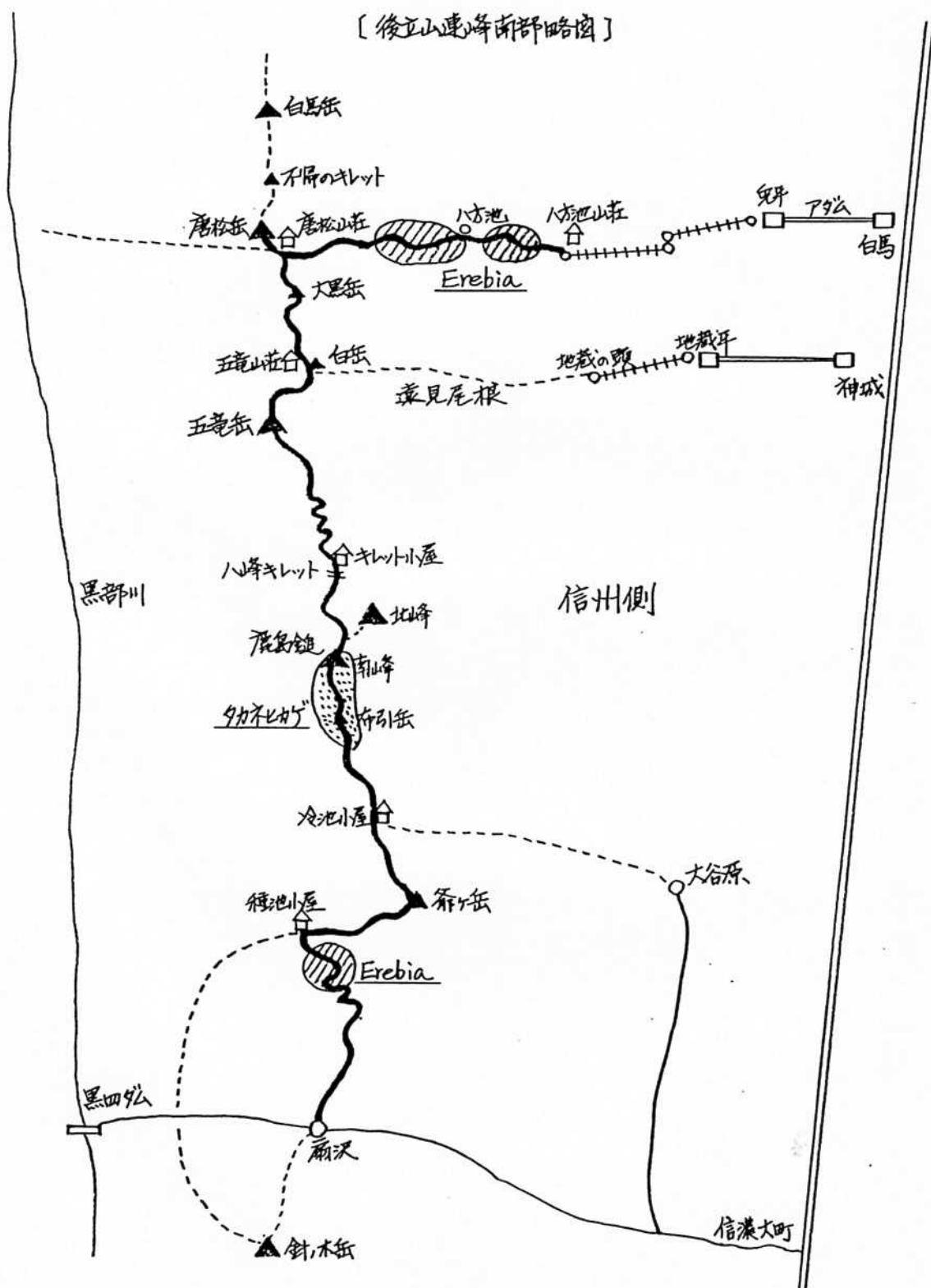
唐松山頂を往復し、五竜山荘へ向かう。大黒岳周辺はかなり危険な箇所があり、鎖がかかっている。下りであるがかなりきつい。点々とコマクサの大群落も見られた。五竜山荘は思ったより遠い。

ようやく白岳の肩に着くと、遠見尾根からの登山道と合流する。すぐ眼下に五竜山荘が見えた。16:30。五竜山荘ではゆったりと眠るスペースがもらえたが、食事はあまり良くなく、一泊二食5,500円。

8月13日、5:00起床。朝食後6:00に五竜山荘を出発。眼前に五竜岳がそびえ立つといった感じ。きつい登りを約30分で、五竜岳の肩に着いた。突然視界に鹿島鑓が飛び込んでくる。流れるような稜線が見え、山頂は北峰、南峰の双耳峰になっていた。振り返ると、唐松岳の向こうに白馬岳が小さく見えた。更に鎖場を15分程登ると、五竜山頂に到着した。

頂上からの360°の展望は最高。白馬岳、唐松岳、剣、立山、鹿島鑓がはっきり

[後立山連峰南部略図]



見える。記念撮影をしたあと、7:10に五竜岳を出発。

ひたすら下りで、危険な岩場をいくつか過ぎる。スピードは遅く、あまり疲れない。ここからは、小さな上り、下りを繰り返し、鎖場をいくつも越える。右手に剣、立山がよく見え、眼前には鹿島鍾がはっきり見える。9:50、キレット小屋に到着。大休止。

10:20、キレット小屋を出発。すぐに八峰(はちみね)のキレットにかかる。思ったよりも危険ではなく、難なく通過した。ここからはひたすらの登り。もう鹿島鍾にとりついていたので、頂上部は見えない。鎖場も次々と出てくる。11:50、ようやく吊尾根に着いた。北峰と南峰の頂上がよく見える。小休止後、縦走路になっている南峰を目指す。

12:30、遂に最大の目的であった鹿島鍾ヶ岳山頂に着いた。12:00~13:00、昼食。ビールがうまい。眼前に剣岳、立山が見え、針ノ木岳も小さく見える。振り返ると歩いてきた縦走路が稜線沿いに見える。もう信州側にはすごいガスがかかっている。

頂上付近では、吹き上げられたと思われるキアゲハが飛び回っていた。突然、黒い蝶が岩から飛び立った。タカネヒカゲだ。飛び方は何度も見ているので、すぐにわかった。良く見ると、いくつもタカネヒカゲが飛んでいる。

13:30に冷池(つべたいけ)小屋を目指して出発。緩い下り道は、砂礫地になっていて、20m毎位にタカネヒカゲが飛びだした。結構個体数が多い。タカネヒカゲは布引岳の少し下のハイマツ帯まで目撃された。

15:00、冷池小屋到着。150円のアイスクャンデーのあるのが嬉しい。15:30、出発。16:40、爺ヶ岳到着。眼下のガスも晴れて、信州側の街々が見える。17:20、種池小屋到着。低いダケカンバに囲まれたオシャレな小屋だ。アイスクャンデーあり。食事は良かったが、眠るスペースは狭かった。

8月14日、朝7:20に種池小屋を出発。種池小屋でタクシーを予約して、扇沢目指して下る。目の前に針ノ木岳が大きく見え、遠くに小さく富士山が見えた。八ヶ岳連峰と南アルプスもかすんで見えた。

少し下ると森林帯に入り、時折雪渓を越える。お花畑では、Erebiaをいくつか目撃した。9:30、扇沢出合に到着。林道にタクシーが1台待っていたので、これに乗り信濃大町駅へ。4330円。10:14の白馬行に間にあった。

マヤサンコブヤハズを宝達山で記録

井 村 正 行

本種は、これまで能登の輪島市宝立山、輪島市高洲山及び志賀町眉丈山において各1頭位しか採集されていなかったが、今回記録のなかった押水町宝達山においてトラップとビーティングで6頭採集したので報告する。

1986年10月4日 1♂2♀ 押水町宝達山 井村正行

1986年10月12日 1♂2♀ 押水町宝達山 井村正行

金沢から最も近いゼフィルス24

松井 正 人

最近「ゼフィルス24」とか言う生態写真集が出版されたが、金沢のゼフィルス24はいったいどうなっているのだろうか。とは言っても金沢に24種生息する訳はなく、金沢(香林坊付近)からゼフィルス24種を探しに行くとすれば何処が良いのか? いや金沢から最も近いゼフィルス24はいったい何処かといった話をしてみたい。

現在金沢市内で発見されているゼフィルスは16種、これらの総ては市街地をとりまく雑木林に生息する。更に枡を石川県に広げるとムモンアカシジミが追加され、残りは今のところ県外へ出るしかない。

それでは金沢から最も近いゼフィルス24の一覧表をお目にかけよう。ただしこれは、1986年現在で私が知る範囲のもので、もっと近い場所を御存じの方はどしどし投稿して頂きたい。

NO.	名 前	場 所	金沢からの車片道時間(h)	備 考
1	ウラゴマダラシジミ	金沢市医王山	0.5	少ない
2	チョウセンアカシジミ	山形県小国町	5.0	
3	ウラキンシジミ	金沢市医王山	0.5	
4	ムモンアカシジミ	尾口村一里野	1.0	
5	アカシジミ	金沢市医王山	0.5	
6	ウラナミアカシジミ	金沢市曲子原	0.5	
7	オナガシジミ	金沢市医王山	0.5	
8	ミズイロオナガシジミ	金沢市医王山	0.5	
9	ウスイロオナガシジミ	金沢市医王山	0.5	
10	ウラミスジシジミ	金沢市医王山	0.5	
11	ウラクロシジミ	金沢市医王山	0.5	多い
12	ミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	
13	メスアカミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	
14	アイノミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	
15	ヒサマツミドリシジミ	富山県細入村	1.5	
16	キリシマミドリシジミ	滋賀県山東町	3.0	
17	フジミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	
18	ウラジロミドリシジミ	長野県白馬村	3.0	
19	オオミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	
20	クロミドリシジミ	長野県松本市	4.5	
21	エゾミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	
22	ヒロオビミドリシジミ	兵庫県三草山	4.5	
23	ハヤシミドリシジミ	長野県白馬村	3.0	
24	ジョウザンミドリシジミ	金沢市医王山	0.5	

石川県のカミキリムシ科 (その6)

井村正行

108. チャイロホソヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus* LINNE

低山からブナ帯に広く分布し、6月から7月に各種広葉樹の伐採木等集まる。個体数は低山では少ないが、ブナ帯では比較的多い。成虫には2型の色彩パターンがあり、全体が褐色になるものは少なく、上翅がルリ色のものが多い。

1979年6月10日 1♂1♀

白山大杉谷林道

井村正行

109. アカネカミキリ *Phymatodes maaki* KRAATZ

低山からブナ帯まで広く分布し、5月から6月頃にヤマブドウ等の枯枝やミズキ等の花より採集される。花での採集例は少ないが、ヤマブドウ等の枯枝では多くの本種が採集できる。ホストはヤマブドウで越冬態は終齢または蛹である。

1978年4月24日 1♀羽化

金沢市倉ヶ岳

井村正行

1979年5月4日 1♀

金沢市倉ヶ岳

井村正行

110. シロオビチビヒラタカミキリ *Phymatodes albicinctus* BATES

低山帯からブナ帯まで広く分布する。前種とほとんど同じ生態で、ほとんどの地域で混生している。5月から6月にかけて採集され、少ないながらミズキ等の花にも集まる。越冬態は終齢または蛹で、ホストはヤマブドウ。

1978年6月2日 2♂1♀羽化

金沢市倉ヶ岳

井村正行

1979年6月20日 1♂

白山釈迦林道

井村正行

111. ヨツボシチビヒラタカミキリ *Phymatodes quadrimaculatus* GRESSITT

白山のブナ帯下部に分布し、5月下旬から6月に各種広葉樹の比較的新しい伐採木に集まる。これまで本種の採集例は白山大杉谷林道のみで、この地より持ち帰ったクリの枯材より多数の本種が羽化した。生態のサイクルは1年のようで、幼虫は樹皮下を食し蛹室は材にほんの少し入った所にある。越冬態は蛹または新成虫のようだ。

1979年6月10日 4exs

白山大杉谷

井村正行

1980年4月1日~20日 30exs羽化

白山大杉谷

井村正行

112. トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis* CHEVROLAT

県内では平地から低山帯に分布し、7月から8月に桑の生木にいるものが採集されている。かつて金沢市周辺では桑の栽培が各所で行われていたために桑の木が多く残っていて、本種も多く見ることができた。近年では市街地周辺山麓部の開発等により桑の木が激減し、それとともに本種を見る機会も大変少なくなってしまった。個体数は多くない。

1968年9月3日 1ex

金沢市涌波

松井正人

113. ニイジマトラカミキリ Xylotrechus emaciatus BATES

白山のブナ帯で7月から8月に採集される。広葉樹の立枯れや伐採木に飛来したものが採集されているが、個体数は少ない。

1973年7月22日 1♂ 白峰村百万貫岩 入場 登

114. ブドウトラカミキリ Xylotrechus pyrrhoderus BATES

県内では平地に分布。河北郡高松町などブドウの栽培が盛んな地で発生しているようである。高松町の栽培ブドウの枯れづるより羽脱した記録もある。発生期は8月から9月で個体数は多くない。越冬態は幼虫で飼育すると8月頃羽化した。ホストは栽培されたブドウ。

1957年8月17日 1ex 金沢市鈴見山 松枝 章

1977年8月23日 1♀羽化(ブドウ) 高松町 入場 登

115. ウスイロトラカミキリ Xylotrechus cuneipennis KRAATZ

白山のブナ帯から亜高山帯に分布し、広葉樹の立枯及び伐採木等を集まる。とくにブナを好むようだ。7月から9月に見られ個体数も多い。

1979年8月26日 1♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行

1982年7月11日 1♂ 白山大杉谷林道 井村正行

116. ツマキトラカミキリ Xylotrechus clarinus BATES

白山のブナ帯に分布。広葉樹の立枯及び伐採木に集まる。7月から8月に見られるが、本県での個体数はそれほど多くない。

1980年7月13日 1♂1♀ 白山釈迦林道 入場 登

117. クビアカトラカミキリ Xylotrechus rufilius BATES

平地からナ帯下部まで分布。各種広葉樹の伐採木に集り、特に低山帯に多く見られる。5月から7月に発生し個体数も多い。

1979年7月4日 多数 津幡町 野中 勝

1986年6月15日 1♂1♀ 白峰村白峰 井村正行

118. ムネマダラトラカミキリ Xylotrechus grayii WHITE

低山帯からブナ帯まで広く分布。広葉樹の伐採木に集り、特にキリ材の新しいものに好んで集まる。石川郡白峰村で本種を見た時は、一度はコシアブラに、一度はアオダモと思われる伐採木に好んで集まっていた。発生期は5月から6月で、個体数は多くない。本県で確認できたホストはキリで、越冬態は材内成虫と2割程の終齢幼虫が見られた。

1979年3月28日 3♂4♀新成虫(キリ) 金沢市小原 井村正行

1986年6月15日 1♂ 白峰村白峰 井村正行

119. クリストフコトラカミキリ Plagionotus christophi KRAATZ

石川郡鶴来町の古い採集記録1例しかなかったが、1983年5月野中 勝氏によって炭焼き用の伐採木より新たに採集され、筆者も同地で3頭採集した。低山帯に分布し、発生期は5月から6月でアベマキ、コナラ等の伐採木に集まる。

1983年5月29日	1♂	金沢市俵	野中 勝
1985年6月9日	1♂	金沢市俵	井村正行

120. コトラカミキリ Plagionotus pulcher BLESSIG

記録はあるようだが筆者はまだ確認していない。

121. シラケトラカミキリ Clytus melaenus BATES

平地からブナ帯上部まで広く分布。4月下旬から7月まで見られ、各種広葉樹の伐採木等や花に集まり、個体数も大変多い。県内で記録できたホストには、コナラとクリがある。1世代は2年を要し、1年目の越冬態は中齢幼虫で、2年目は前蛹であった。

1981年5月1日~31日	多数羽化(クリ)	白山大杉谷林道	井村正行
1986年6月15日	2♂	白峰村白峰	井村正行

122. シラオビトラカミキリ Clytus raddensis PIC

金沢市卯辰山で採集記録があるらしいが、筆者はまだ確認していない。

123. キンケトラカミキリ Clytus auripilis BATES

平地からブナ帯上部に広く分布。ホストのケヤキが分布している場所では、かなりの確率で本種を見ることができる。4月下旬から6月にケヤキの伐採木や各種花に集り、個体数も少なくない。越冬態はほとんど新成虫で、一部終齢幼虫も見られる。

1979年3月7日	多数新成虫(ケヤキ)	金沢市四十万	井村正行
1981年5月22日	1♂1♀羽化(ケヤキ)	加賀市吉崎	井村正行

124. アカネトラカミキリ Brachyclytus singularis KRAATZ

平地からブナ帯に分布。4月下旬から6月にヤマブドウの枯れづるや、花に來たものが採集されている。越冬態は新成虫で、冬期にホストのヤマブドウの枯れづるより採集されている。材外成虫の採集例はそれほど多くない。

1979年2月18日	1♂1♀新成虫(ヤマブドウ)	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1980年4月11日	多数新成虫(ヤマブドウ)	金沢市卯辰山	井村正行

※前号(翔60号)の本稿に於いて 92. カッコウメダカカミキリ の項で説明が一部抜けていたので次の文を末尾に付け加える。

「幼虫で越冬したものの大部分は6月頃羽化脱出する。」

1986年石川県昆虫界10大ニュース

参加者15名の12月例会に於いて、1986年の10大ニュース並びにMr.Ms.蝶談会を決定した。今回は飛び抜けたニュースが無く、更にはニュースが多方面にわたった結果各分野での重要性が問題となり、順位決定は困難を極めた。

また普通種の地道な調査活動を通して、新たな虫との接し方を蝶談会にもたらし、田中秀夫氏がMr.蝶談会に選ばれたことは、今回の特徴でもある。それでは順を追って今年のニュースを発表する。文中〔 〕でくくったものは発表された翔の号数を示す。

★第1位 オオムラサキの分布調査進展

オオムラサキは金沢市近郊に普通に見られるが、いったいどの辺りまで分布しているのだろうか。こんな疑問から田中秀夫氏は調査を開始したが、調査を進めながら新たな疑問が次々と湧いてきたという。春の越冬幼虫はなぜか発見が難しい。幼虫は秋いつ頃、何時頃、どのように木を降り、ゴマダラチョウとどっちが早いのか。市街地にゴマダラがいるのに、なぜオオムラサキはいないのか。山奥にはオオムラサキしかいない所があるのか。等々新たな疑問を次々と抱きながら、今年は金沢市近郊のエノキを調べ尽くした。その結果は「雑木林とエノキがあればオオムラサキは何処にでもいる。」であった。

1年を通しての地味な調査活動と、「なぜ」「どうして」といった疑問の目を持ち、同じ虫と違った角度で接する楽しさを我々に啓発したことによって、田中秀夫氏はMr.蝶談会に選ばれた。

★第2位 ホシチャバネセセリの食草判明

石川県にホシチャバネセセリが生息することは知られていたが、食草は判らないままであった。ここにセセリ好きで幼虫採集にも色気のある松井正人氏が目をつけ、氏も書いているように2年がかりでようやくミヤマアブラススキから幼虫を確認した。これにより松井正人氏は、本年の準Mr.蝶談会に選ばれた。

[NO.59]

★第3位 白峰村でギフチョウの発生地発見

前年(1985年)白峰村で初のギフチョウが目撃されたが、当地で発生したものか不明のままであった。今年松井正人氏の度重なる調査の結果、白峰村の2カ所から発生地が発見された。この発生地は既産地からはかなり離れているが、今後の調査によって分布がつながることも考えられる。[NO.58]

★第4位 ギフチョウ自然蛹の発見

ギフチョウの自然蛹は捜しても見つかるものでなく、ましてや地上1mの朽木の中からの発見は初めてであろう。中西重雄氏は新潟県青海町でマイマイカブリを掘っていて偶然発見したものであるが、今後案外こんな所からたくさん見つかるかも知れない。[NO.56]

★第5位 白山薬師山でゴマシジミ確認

白山でのゴマシジミの記録は尾添川水系に限られている。すなわち蛇谷、中の川、丸石谷で、発生地が確認されているのは丸石谷だけである。今回のものは中の川から吹き上げられたものと思われるが、中の川の記録は1972年、1976年に続く3頭目のものと思われる。[NO.60]

★第6位 オオチャイロハナムグリの採幼

県内でまだ数頭しか採集されていないオオチャイロハナムグリの幼虫がなんと8exs(マユ4個を含む)も採集され、3exsが羽化に至り、3exsは飼育続行中である。これらは白山のブナとトチの大木から得られたもので、掘り出す時にマユを壊したものは羽化に至らず死んでしまったらしい。[NO.59]

★第7位 ゴマシジミ生態写真の撮影

県内で確実にゴマシジミに会える場所は1カ所しかなく、ここへの出入りには急峻なガレ場を通らなければならない。更にゴマシジミは切り立った露岩地を上下に飛ぶことが多く、なかなか止まってくれない。こんなことからこれまでゴマシジミに会った人は少なく、写真もなかなか撮られなかったが、今年苦勞の末、竹谷宏二氏のカメラに納まった。

★第8位 オオセンチコガネの大量採集

県内からはこれまでいくらかづつ採れていた本種ではあるが、今年人糞トラップの導入により、3桁という大量採集が成された。この人糞トラップには、他人には話せぬ涙ぐましい数々のエピソードが共なった。

★第9位 野中勝氏の渡米

本会の有力メンバーが4月より2年間の予定で抜ける形となった。仲間内では、アオダカシで有名な氏の不在の影響は多大で、会員の動きがめっきり鈍くなり、冬眠に入る者さえ現れた。

★第10位 第1回虫供養挙行

我々は昆虫達から目一杯遊んでもらっているが、数多くの昆虫達の命を奪い、知らんぷりしている。これからも末長く彼らと親しむために、今年から虫供養を挙行することになった。第1回は6月4日城南亭にて御酒をくみかわしながら行われた。

番外ニュース (順不同)

★ミスジチョウの採幼

秋季の越冬巣は、枝先に残っている枯葉にカモフラージュされ大変見つけにくい。冬季ミスジチョウの好む谷筋は、雪崩の危険があり近づけない。春季はカモフラージュ枯葉がほとんどなく探し易いが、雪解けと同時に木々は芽吹いてしまうので適期は短い。雪国の越冬幼虫採集は、なかなか難しいのです。

★稀種の採集

スミイロクビボソハナカミキリを木曾御岳山にて井村正行氏採集。

ヒメアケビコノハを白峰村風嵐にて山本直樹氏採集。

★オサ屋県外進出

蝶談会で縄張りを固めつつあるオサムシ組、県内では飽きたらず、盛んに県外へ進出している。北海道、佐渡、上越、対馬とデコデコ、ピカピカを求めて盛んに掘りまくっているが、これは2年後の韓国、9年後の中国奥地をも物語っているのかも知れない。

★ヨコヤマヒゲナガカミキリの大量採集

一晩のライトトラップで2頭採れれば最高で、県内ではこれまで十数頭しか採集されていなかった。ところが今年9月の白山釈迦林道で、一晩に9頭もの本種が採集された。

★白山市の瀬方面の道路開通遅れる

土砂崩れのため白峰村風嵐から奥は6月末まで全く入れなかった。昆虫採集のメッカとも言われる市の瀬周辺へ行けずに、泣いた虫屋の数は知れない。

★蝶の発生に異常?

医王山のゼフィルスは少なかった。全然姿を見ない。(吉村軍団)

釈迦道のキベリタテハは多かった。あっというまに9頭も採った。(山本)

釈迦道のアサギマダラは何処へ行っのたか、全然いなかった。(松井)

ミヤマカラスアゲハも少なかった。集団吸水が全然見られなかった。

★城南亭の店開きと店じまい

木曾の料理人大島國雄こと井沢國雄氏は、5月3日嵯峨井家の大BACK UPの基に金沢市城南に御食事所(兼一杯呑み屋)「城南亭」をOPEN。第1回虫供養もこで行われ、蝶談会のたまり場に成りつつあると思われたが、しだいに貧乏神がうつきだし、12月には閉店となってしまった。

1986年収支報告

(単位:円)

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
61年度会費(未納7人)	29,000	会 誌 作 成 費	40,080
60年度以前未納会費(完納)	7,000	バックナンバー作成費	1,600
バックナンバー売上費	27,050	郵 送 費	8,600
郵 送 会 員 郵 送 費	4,050	消 耗 品 費	1,620
寄 付 金(田中秀夫氏)	1,000	例 会 費	11,500
		助 成 費	4,000
		ゴ ム 印 作 成 費	3,500
繰 越 金	45,695	繰 越 金	42,895
計	113,795	計	113,795

※会計年度は1月1日から12月31日

会費は今年より2月例会で集めますので、よろしくお願いします。年会費は1,000円です。

会員の動き・しゃばの動き

★11月30日田中先生、オオクワガタを目指して山梨県茅ヶ岳南麓へ。クヌギをバクカンバクカン破壊したが、オサムシやスズメバチばかりでオオクワガタは姿も見せず。それでもなんとか…クワガタの幼虫を1コ採ってきた。

★11月30日オサムシコンビに強引に連れだされた松井氏、青海ですること無く、クロヒメカンアオイでも見ながらのんびりお散歩。ところがここでクロヒメの青軸(茶色の色素が抜けた種)を見つけたらしい。

★12月5日引っ越しで大急がしの野村氏、仕事が引けてからこまめに荷物を運んでるらしい。この日も会合を見送って、新居との間を行ったりきたり。

★翔愛読者の小西氏(虫屋予備軍)、オオムラサキに興味があるらしく、今冬盛んにモーションをかけてくる。そろそろ一緒に採集にでも行くか。

★12月13日、白水先生から白水 隆退官記念著作集ⅠⅡの寄贈がありました。私なぞ知らない事ばかり載っているゴツイ本です。皆さん多いにご活用ください。

★60号10ページのウラナミアカシジミ蛹に透ける玉の正体は精巢でした。白水先生によれば、古くから知られていたそうです。

★最近金平先生の噂が耳に入りだした。某昆虫バーバーのおやじさんの縫合手術や、某ゴミムシ大家の救急治療等で、虫の話をしている間に治療は終わってしまうらしい。

★12月14日高羽氏、大阪の甲虫学会に出席。帰路時間の許す限り、眼科の田村氏と語り合う。

★松井氏、文献屋に転向か。子供ができていらいめっきり採集回数が減ってきたかと思ったら、今度は新規に昆虫雑誌を2冊も取り始めた。

★12月21日田中氏、八ヶ川沿いにクロコムラの調査。雪がないので探し易く、今年は沢山見つかったらしい。

★12月21日米沢の横山氏、3週連続で福島県の某地へアタック。青海マイマイに匹敵するマイマイが採れるらしいが、どうも訳あって思いっきりツルハシが振れないらしい。

★11月28日二日酔いで頭を抱えた中西氏の所へ、大金を抱えた横山氏、子供を抱えた井村氏が集まり虫採り談義。果ては遭難の疑いをかけられた松井氏も加わりワイワイガヤガヤと平和な一時が過ぎていった。

★12月31日井村泥沼事件。この寒いのにタヌキに化かされたか、井村デリカが田圃に落ちた。道が狭くて牽引車も近よれず、川があってはウイッチもきかない。結局中西氏を泣き落とし、ミニユンボで曳きづり出した。

★12月31日のんびり屋の田中先生、雪が無いので医王の里でゼフ採集。平年ではひょいと手を伸ばせば届く枝に手が届かないらしく、木登りに汗を流していた。

★中西氏、井村氏に感化されたのか、1月1日からフリーの配管屋に変身。当分の間は忙しくて、何処へも行けないらしい。

★江戸川の斎藤氏、ここのところ昆虫切手に関心があるらしい。賀状もJSP昆虫切手部会のキリシマミドリシジミだった。

★今年の蝶軍団はどうもおかしい。1月だというのにゼフ卵の在庫がほとんど無いらしい。不作との話もあるがやっぱりおかしい。

★1月14日片町きんどんにて新年会。お酒も飲める会合ということで、会員の日頃見られない横顔もチラチラのぞいていた。アルコールも程好く回り、カラオケでもうなりたくなる頃、会場は和風スナックへ移行。オデンをつつきながらの水割りもまた格別。カラオケがしだいにGSソングへと傾きだした頃、「熱き心に」を大合唱し閉会とした。参加者は11名。

★1月18日田中、松井の大場組、降雪のなか奥能登までクロコムラサキの調査。河原田川沿いでは多数の幼虫を確認したが、富来川沿いではヤナギすら確認できなかったらしい。

★今年の標題は小幡英典氏によるものだが、実に良く蝶談会の内部を物語っている。この先オサムシが足を伸ばすのか、チョウが翅を拡げるのか、興味津々といったところである。

★北海道での昆虫採集は御用心！道内でフンにきた蝶などを採った場合、蝶を押しつぶした手にエキノコックスが付く場合がある。そのままオニギリなど直接手で食べれば大変危険となる。(月刊むし191号より)

★★★訂正とお詫び★★★
翔60号1ページと9ページの菊池雅之氏の「池」は「地」の間違いです。謹んでお詫び申し上げます。

例会の記録

12月5日(金)今年最後の例会も城南管工2Fにて7時から行った。いつものように集りが遅く、9時ごろになってようやく顔ぶれがそろうまでは雑談。今回は会計規則と恒例の10大ニュースを決定した。10大ニュースについては別記。

会計年度は1月1日から12月31日とし、会費1,000円(据置)は2月例会に徴収(改正)することとなった。

また今回の一人一言は、(中西)9時から仕事だ。(高平)宝達山にアサギマダラは1週間以上飛んでいた。[NO.60P.9関連] (田中)雑木林があれば何処にでもオオムラサキはいる。(松田)今年のゼフは不作、でもヒサマツは例年並。(吉村)庄川河畔にクロコムラが多い。(山本)クロウスタビガを採った。(松井)今年はホシチャバネに明け暮れた。(近藤)ジャコウアゲハはカンアオイに食いつかない。(井村)今年の話はイエローバンドかスミイロクビボソハナだな。(井沢)今度木曜社の炊事係になります。(澤田)木曜社って食堂ですか？(嵯峨井)今年の採集は2回、今はパソコンゲームに励んでいる。(小幡)今度ヤシカがキョーセラになる。でした。

参加者はこの他に2人の夫人を含めた15人でした。

と	ぶ	NO.61	1987年2月6日発行
編	集	松	井 正 人
発	行	百	万 石 蝶 談 会
事	務	局	金 沢 市 大 場 町 東 871 の 15
			松 井 方
			〒920-01 ☎0762-58-2727